

1 平成23年度研究主題

「わかる，できる，楽しい授業をめざして」
～個に応じた指導の工夫～

2 主題設定の理由

本校は教育目標を，次のように掲げている。

知・徳・体の調和がとれ，自らに誇りを持って，心豊かにたくましく生きぬく生徒を育成する。

本校生徒の特長は，明るくあいさつができ，朝作業などのボランティア活動に部活動単位で積極的に取り組んでいることなどが挙げられる。また，地域の教育力も高いことから，文化的・体育的行事等の地域活動への参加意欲も高い。そのため，学校全体が比較的落ち着いた状態にあり，基礎・基本の定着をはじめ，生徒一人一人の学力向上を図っていくことが大きな課題となっている。

これまでの「基礎・基本」定着度調査の分析結果を見ると，各教科とも本県及び本市の平均とほぼ同じか，上回ってはいるものの，国語科では「言語事項」，社会科では「資料の分析・表現力」，数学科では「論理的に説明する力」等が不足していることが指摘されている。

そこで，平成22年度からの3年計画で，研究主題を「わかる，できる，楽しい授業をめざして」，副主題を「個に応じた指導の工夫」とし，生徒が主体的に授業や家庭学習に取り組み，基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できるような指導方法の研究に取り組んでいくことにした。

3 研究の視点

- (1) 各教科・特別支援教育における基礎的・基本的な知識・技能の分類 (H22年度)
- (2) 研究テーマに関する個人テーマと具体策の作成と実践 (H22・本年度)
- (3) 各教科における生徒を主体とした授業の実践 (本年度・H24年度)
- (4) 話し合い活動等を充実させるための学習オリエンテーションの実施 (本年度・H24年度)

4 研究の全体計画

(1) 研修の努力点及び具体策

① 努力点

教師の資質向上のための，校内研修や校外研修の充実に努める。また，研究テーマに基づき，全体・学年・各教科及び特別支援教育で指導の充実に努める。

② 具体策

- ア 校内研修の充実
- イ 学年部会・教科部会の充実
- ウ 生徒指導についての事例研修等
- エ 研究テーマに沿った実践を通じた研究とそのまとめ
- オ パソコン研修と活用の促進
- カ 標準学力検査や「基礎・基本」定着度調査の活用方法についての研修の実施
- キ 先進校視察や教育教育センター等の教育機関を利用した研修の促進

(2) 研修計画

回数	実施日	研修項目	内 容	研修方法	係分担
第1回	5月2日(月)	生徒理解	生徒指導留意生徒の確認	全体	生徒指導
第2回	5月23日(月)	小中連携部会	小中連携(鴨池小会場)	全体	研修係
第3回	8月1日(月)	学力分析, 個人テーマについて 特別支援教育	・NRT分析結果 ・個人テーマに対する具体策 ・特別支援教育について	全体	研修係 教育方法 特別支援 教育担当
第4回	8月19日(金)	情報教育	情報機器を用いた教育について	全体	情報教育
第5回	8月31日(水)	教育課程 人権同和教育	来年度の教育課程について 人権同和教育について	全体	教務 人権同和 教育係

※その他: 10年経験者研修(授業参観, 意見交換)

5 研究の実際

(1) 校内研究テーマに基づいた, 本年度の個人テーマとその具体策の例(国語・数学・英語)

国語科	A	<p>【テーマ】 言語事項の力をつけるための指導法の研究</p> <hr/> <p>【具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した授業の工夫 ・品詞の識別を定着させるための小テストの実施 ・漢字の力を身につけるための家庭学習の充実
	B	<p>【テーマ】 基礎・基本を定着させる多様な学習の在り方</p> <hr/> <p>【具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読活動の充実 ・漢字宅習の定着と充実 ・ワークブックの計画的実施と点検 ・苦手意識をとり除く短作文の指導
	C	<p>【テーマ】 読みを深める授業の工夫</p> <hr/> <p>【具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読みを進めるうえで必要な漢字・語句の理解 ・話の展開をおさえるための接続語の学習 ・ポイントを抑えた心情理解 ・場面の展開に合わせた読み取り

数学科	A	<p>【テーマ】 基礎基本の定着を図り学力向上を目指す</p> <p>-----</p> <p>【具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートのとり方や復習のしかたについての指導 ・ノートやワークの定期的な点検指導 ・毎時間の小テストを実施
	B	<p>【テーマ】 基礎的な計算力と問題解決能力の育成</p> <p>-----</p> <p>【具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の小テストを継続して行う。(1・2年の復習, 前時までの復習, 定着) ・図形の領域に入るの, 性質や定理を確認しながら, どう活用するか視覚的な教材, 教具を準備し利用する。
	C	<p>【テーマ】 すすんで学びに向かう生徒の育成</p> <p>-----</p> <p>【具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が学習内容をつかめる学習目標や学習課題の工夫を図る。 ・「聴くとき」, 「書くとき」の分別をしっかりとさせる。 ・過程を重要視させ, 途中の計算等をしっかりと書かせる。 ・小テストやドリルを活用し, 定着を図る。 ・プリントやワークを活用し, 家庭学習を充実させる。
	D	<p>【テーマ】 基礎学力の向上</p> <p>-----</p> <p>【具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストを行い定着を確認する。 ・状況に応じて個別指導を実施する。

英語科	A	<p>【テーマ】 学ぶ喜びを味わえる授業展開</p> <p>-----</p> <p>【具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストの実施 ・発表する場の提供 ・分かりやすい説明の工夫
	B	<p>【テーマ】 実践的コミュニケーション能力の育成を目指した教科指導の工夫 ～音読・書くことを中心に～</p> <p>-----</p> <p>【具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習への見通しをもたせ, 毎時間の到達目標を設定する。 ・授業の中に基本文のドリルの時間を設け, 英作文に取り組む。 ・生徒一人ひとりに2学期の宅習目標を設定させ, 家庭学習の定着を図る。
	C	<p>【テーマ】 基礎・基本の定着をめざした授業の工夫</p> <p>-----</p> <p>【具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項のくり返し学習の徹底 ・音読練習や対話活動の充実
	D	<p>【テーマ】 英語で表現することに楽しさと自信を持たせる授業をめざして</p> <p>-----</p> <p>【具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材研究に努め, ワークシートや教具の工夫をする。 <ul style="list-style-type: none"> ○パワーポイントでの授業 ○個に応じたワークシートづくり ・提出物の見届けをしっかりとる。

(2) 授業の実践例 (国語・社会・理科)

国語科) 学習指導案

学級名・人数	1年1組 (男子20名, 女子19名) 計 39名	場 所	1年1組教室
単元(主題)名	スピーチをしよう	授業者	
		時 数	(本時 1/4)
本時の目標	(1)スピーチをする上で、話し方や内容の工夫が必要であることに気づくことができる。 (2)原稿作成では、話す内容を整理し、話の組み立てや話し方の工夫をすることができる。		

過程	主 な 学 習 活 動	指導上の留意点 (・支援, ◇評価)
導入 (10)	1 小テストを通して、既習漢字の定着度を確かめる。 2 スピーチの見本を見る。	<ul style="list-style-type: none"> 他者採点をさせた後、各自でやりなおしをし、問題用紙の回収後は結果を個別指導に役立てる。 スピーチの動画を見せ、人に伝えるためにどんな工夫をしているか、気づかせる。 教材第54回鹿児島市中学校生徒弁論大会 http://www.keinet.local/system/url/content/benron2009/index.htm
展開 (35)	2 本時の学習目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 人に伝わりやすいスピーチ発表のコツは何だろう。 </div> 3 動画を見て、スピーチをする上で、大切なことは何かを考える。 ○ 話し手に大切なこと ① 内容の精選 ② 話の組み立ての工夫 ③ 表情・声量・声の表情 ○ 聞き手に大切なこと ① 伝えたいことを正しく聞く ② 合いの手をする (うなずき, 反応) 4 スピーチ原稿を作成する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【スピーチの形式】 1分間の暗唱スピーチを行う。 </div> ① 「レポートを書こう」で調べた内容から何を伝えたいか、内容を精選する。 ② 精選した内容を三段落構成に当てはめ、伝えるためにより効果的な組み立てを考える。 ③ スピーチは、ジェスチャーや画像紹介など、動きのある発表は人の興味関心を高めることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の調べたことを人に伝えるためのコツを最初に押さえることで、次の活動である原稿制作に役立てさせる。 スピーチをする上で、話し手に必要なことと聞き手に必要なことを比較しながら、まとめていく。 ◇ スピーチをする上で、話し方や内容の工夫が必要であることに気づくことができたか。(発表やノート) 題材は「レポートを書こう」で各自が調べたさまざまな職種について詳しく調べた内容である。そのため、伝えたいことを2つか3つに精選させる。 話の組み立ての方法として「三段落構成」を紹介し、それぞれの段落に入れる話題を考えさせる。 スピーチの時には、教材提示装置を使ったり、実物を持ってきて紹介したりしてもよいことを伝える。 ◇ 原稿作成では、話す内容を整理し、話の組み立てや話し方の工夫をすることができたか。
終末 (5)	5 本時の学習を振り返る。 6 次時の学習を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 数人のスピーチ原稿を紹介し、それぞれの良さに気づかせる。 次時は、原稿を完成させ、スピーチ発表の練習を行うことを知らせる。

(社 会) 科 学 習 指 導 案

学級名・人数	2年5組 (男子17名, 女子17名) 計34名	場 所	2年5組教室
単元(主題)名	「日本の中国侵略」	授業者	橋元 善則
		時 数	3 / 4
本時の目標	(1)日本は満州事変を引き起こして満州を実質的な植民地とし、その後、国際連盟を脱退し、国際社会において孤立していくことが理解できる。 (2)軍部は、五・一五事件、二・二六事件を起こし、次第にその発言力を強めていったことが理解できる。		

過程	主 な 学 習 活 動	指導上の留意点 (・支援, ◇評価)
導入 (5分)	1 「二・二六事件」に関して、戒厳司令部から発表されたラジオ放送を聴いて、その内容を考える。 2 本時の学習目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 満州事変後、軍部はどのように政治や外交を動かしていったのだろうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の既習知識の中で考えさせ、積極的に考えさせる。 ◇視聴覚教材による資料を意欲的に読み取ろうとしているか。
展開 (35分)	3 「満州は日本の生命線」というスローガンを確認し、そのような中、起こった満州事変について調べる。 4 満州事変、満州国の成立から国際連盟脱退までの日本の動きについて、その実態を調べる。 5 五・一五事件と二・二六事件について、それぞれの事件の概要を調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や年表から「柳条湖事件」の発生から広がり調べる。 ◇資料を多面的・多角的に考察しようとしているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・国民の困窮や軍部の主張など、当時の社会的・政治的状況をふまえながら、満州事変から国際連盟脱退までの経緯を理解させる。 ◇調べる中で、自分の意見を持つことができたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・大陸侵略、青年将校らのクーデター、軍部の政治介入・思想弾圧など国内の軍国主義の高まりについて理解させる。
終末 (10分)	6 板書を記述しながら、本時のまとめを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・板書で要点を振り返り、生徒自身の言葉でまとめられるようにする。 ◇まとめをしながら、本時の学習目標をおさえることができたか。

(理 科) 学 習 指 導 案

学級名・人数	2年1組 (男子17名, 女子18名) 計35名	場 所	第1理科室
単元(主題)名	電流がつくる磁界を調べてみよう	授業者	
		時 数	1/9 (2章)
本時の目標	(1) 磁界について関心をもって調べようとする。 (2) 磁石の回りの磁界の様子を理解することができる。(演示実験) (3) コイルに電流を流したときにできる磁界の様子を調べることができる。(実験6) (4) コイルの回りにできる磁界を磁力線で表すことができる。		

過程	主 な 学 習 活 動	指導上の留意点 (・支援, ◇評価)
導入 (8分)	1 本時の学習目標を確認する。 電流がつくる磁界を調べよう。 2 実験の方法 (演示実験・実験6)を確認する。	・本時の学習内容の確認を行う。 ・ 実験の方法について, 注意事項をふまえながら, 具体的に説明を行う。
展開 (34分)	4 (演示実験) 磁石の回りに鉄粉をまいて, 磁石の回りの磁界について確認する。(小学時の復習) 5 (実験6) ①コイルに電流を流し, コイルの回りにできる磁界を観察する。 ②コイルに流れる電流の向きを変えたときの磁界を調べる。 6 コイルの回りにできる磁界を磁力線で表す方法についての説明を聞く。	・演示実験を通して, 小学校での学習 (磁界のはたらき)の復習を行う。 ・生徒実験が的確に行われているか, 期間巡視を行う。 ◇電流による磁界の様子を, 実験を通して, 的確に観察することができるか。 ・電流による磁界の様子を磁力線で表す方法についての説明を行う。
終末 (8分)	7 本時のまとめをする。 8 次回の学習内容の予告をする。	・コイルがつくる磁界について理解できたか確認する。 ◇まとめをしながら, 本時の学習内容をおさえることができたか確認する。

(3) 学習オリエンテーションの実施

「学習オリエンテーション」の流れ（本時の実際）

平成22年9月6日(月) 5校時

指導者：学級担任

1 本時の目標

学業における基本的な行動（「学習の心得10ヶ条」）を理解し、授業の場で生かすことができるようにする。

2 本時の実際

過程	指導内容	時間	指導上の留意点																
導 入	1 学習指導の意義を説明する。(放送)	5 分	☆ 学級担任は、始業2分前に教室へ到着し、黙想をさせる。 1 学習指導の意義 学力向上を図るためには、学習に取り組む態度をしつかりし、学級の雰囲気をも高める必要がある。そのために学習指導を行う。指導したことは毎日の授業で必ず実践してほしい。																
	2 「学習の心得10ヶ条」の確認をし、全員で唱える。																		
展 示	3 授業開始前後の基本的な行動の説明をする。(放送) (1) 黙想の意義について (2) 授業開始のあいさつについて(起立 姿勢 礼) ・始業チャイムが鳴り始めた時の行動 総務は「黙想」の号令をかける。生徒は姿勢を正して黙想をする。 ・授業開始時の行動 総務の「起立」、「姿勢」、「礼」の号令に合わせて生徒は全員起立(座席の右側)し、元気よく大きな声で「お願いします」と言う。 ・授業が終わった時の行動 授業の始まりの行動と同じ。 元気よく大きな声で「ありがとうございました」と言う。	5 分	3 (1) 黙想の意義 休み時間とのけじめをつけるとともに、この時間何をすべきか考えながら心を落ち着かせる。 ☆ 担任は次の観点から4の観察・評価をする。 ア 黙想の姿勢は正しいか。 イ 起立する時の音は適切か。 ウ 号令は大きく、はっきりしているか。 エ 「お願いします」「ありがとうございました」の声は大きいか。 ☆ 観察・評価をもとに、よくできない部分について再度練習させる。																
	4 授業開始前後の基本的な行動について練習する。(各学級担任)																		
開	5 発表にともなう基本的な行動の説明をする。(放送) (1) 挙手について ・挙手は、右手のひじ、指を真っ直ぐ伸ばす。 (2) 返事について ・指名され、発表する時は「はい」と返事をし、座席の右横に静かに立つ。 (3) 発表の仕方について ・発表の際は、体はみんなの方(教室の中心)を向いて、はっきり聞こえるように大きな声で語尾まではっきりさせて言う。 (4) 聞き手の態度について ・聞く方も発表者の方を向く。(目で聞く) ・「そうです。」「他にもあります。」など発表に対してしっかりと応答する。	5 分	5 話し合い・練り合いの基本話形 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">ア 同じ意見</td> <td style="width: 60%;">今の意見と同じで～だと思います。</td> <td rowspan="6" style="width: 25%; vertical-align: middle;">理由は～だからです。</td> </tr> <tr> <td>イ 異なる意見</td> <td>今の意見と違って～だと思います。</td> </tr> <tr> <td>ウ 付け加え</td> <td>今の意見に付け加えて言います。</td> </tr> <tr> <td>エ 反対の意見</td> <td>今の意見には反対です。</td> </tr> <tr> <td>オ 質問</td> <td>今の意見に質問があります。</td> </tr> <tr> <td>カ 催促</td> <td>今の意見をもう一度言ってください。</td> </tr> <tr> <td>キ 小異の意見</td> <td>今の意見とは少し違っているのですが</td> <td></td> </tr> </table>	ア 同じ意見	今の意見と同じで～だと思います。	理由は～だからです。	イ 異なる意見	今の意見と違って～だと思います。	ウ 付け加え	今の意見に付け加えて言います。	エ 反対の意見	今の意見には反対です。	オ 質問	今の意見に質問があります。	カ 催促	今の意見をもう一度言ってください。	キ 小異の意見	今の意見とは少し違っているのですが	
	ア 同じ意見		今の意見と同じで～だと思います。	理由は～だからです。															
イ 異なる意見	今の意見と違って～だと思います。																		
ウ 付け加え	今の意見に付け加えて言います。																		
エ 反対の意見	今の意見には反対です。																		
オ 質問	今の意見に質問があります。																		
カ 催促	今の意見をもう一度言ってください。																		
キ 小異の意見	今の意見とは少し違っているのですが																		
6 発表にともなう基本的な行動について練習する。(各学級担任) 【例】「夏休みのいちばんの思い出は何ですか」 ・「最近のニュースで印象に残っているものは何ですか」など		☆担任は、次の観点から6の観察・評価をする。 ・手の上げ方は正しいか。 ・指名されて発表する時「はい」と返事ができたか。 ・発表は多数の方を向いて、よく聞こえる声で語尾まではっきりと言えたか。 ・聞き手は、発表者の方を向いて聞いたか。																	

	<p>7 グループ活動の意義や基本的な行動について練習する。 (各学級担任)</p> <p>(1) グループでの話し合いの意義 (2) グループのつくり方と班長の席</p> <ul style="list-style-type: none"> 机、椅子を持ち上げながら、音を立てずに素早く班をつくる。 <p>【例】</p> <table border="1" data-bbox="263 481 726 593"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>教卓</td> <td></td> <td>班長</td> <td></td> <td></td> <td>班長</td> </tr> </table> <p>(3) 話し合いの態度について</p> <ul style="list-style-type: none"> 班長を中心に中央に身を乗り出すように話し合う。 班長は司会をし、できるだけ全員に発表させる。 必要に応じて記録係もつける。 							教卓		班長			班長	5分	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>7 グループでの話し合いの意義</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを確認できる。 他人の意見を聞くことによって、考えが広がる。 </div> <p>・班づくりの練習をさせる。 ※ 机や椅子は軽く持ち上げ、移動させる。</p> <p>☆担任は、次の観点から7の観察・評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 班をつくる時、音を立てなかったか。 短時間で行動できたか。
教卓		班長			班長										
	<p>8 グループ活動での基本的な行動をおさえながら、実際に話し合いを行う。</p> <p>(1) 学級のテーマ(問題点・行事の取り組み等)について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマは学級の実態に合わせて設定し、事前に決めておく。 具体的な改善策を出し合い、2学期から実践していく。 	25分	<p>☆グループでの発表の話形(司会の進め方)</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>司会 「これから～について話し合います。」 班長は何を話し合うのかを班員全員に確認させ、しばらく考えさせる。</p> <p>司会 「それでは〇〇さんから意見を述べてください。」 班員全員に発言させ、終わったら5の話し合い・練り合い話形を使って内容を深めていく。</p> <p>司会 「私たちの班では、～のような考え(意見)が出ました。(～にまとまりました。)」 全体の場で発表する。</p> </div> <p>☆担任は机間指導をしながら、次の観点に従っての観察・評価をし、さらに指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全員が話し合いに参加しようという意欲が見られたか。 班長の司会や指示はしっかりできているか。 話し合い、練り合いの話形は使われているか。 班長に話し合いの結果を発表させる。 												
終末	<p>9 今までの説明や指導を振り返り、本日の学習点検・自己評価カードに記入をする。 (各学級担任)</p>	5分	<p>☆まとめの話をする。</p>												

6 成果と今後の課題

(1) 成果

- ・ 学習指導に関する研修に加えて、特別支援教育や個別支援を含む生徒指導についての事例研究や、パソコン研修、研究授業などを行うことで、より具体的に個に応じた指導の工夫をすることができた。
- ・ 研究テーマに関する個人テーマをたて、全体で共有することにより、意識して研究テーマに沿った授業改善に取り組むことができた。
- ・ 平成22年度の個人テーマに関する各個人の反省から、成果と課題がはっきりしてきたので、今後の各教科での指導に生かすことができた。
- ・ TTや少人数指導など、指導方法を工夫したことで、教員同士の連携も深まり、より個に応じた指導をすることができた。また、基礎・基本定着度調査においても、少しずつ成果が表れてきている。

(2) 今後の課題

- ・ 生徒が自ら進んで意欲的に学習に取り組むための工夫や、家庭学習の充実（時間の有効な使い方）についてさらに研究を深める必要がある。特に、保護者と連携した家庭学習の充実に力を入れていきたい。
- ・ 生徒や保護者による自己評価を実施し、共通実践事項としての自覚を高めていく。
- ・ 先進校視察や教育センター等の教育機関を利用した研修も促進していきたい。